

道徳の時間学習指導案

竹原市立竹原西小学校

大橋 美代子

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 4 日（金）
- 2 学 年 第 5 学年 1 組 男子 12 人 女子 11 人 計 23 人
- 3 主題名 一人一人が主役 4－（3） 役割の自覚
- 4 資料名 「森の絵」（出典：道徳教育推進指導資料（指導の手引） 4

「小学校読み物資料とその利用―主として集団や社会とのかかわりに関すること―」平成 6 年 3 月 文部省）

- 5 ねらい 自分がやりたかった女王の役ができなくなり、やる気を失ったえり子が、みんなのために絵を描こうと決めるに至った気持ちの変化を考えることを通して、集団の一員として自分の役割を自覚し、集団全体のことを考えて行動しようとする道徳的態度を養う。

6 主題設定の理由

- 本主題は、小学校学習指導要領解説の道徳編の 4－（3）「集団における役割の自覚」をもとに設定した。本内容項目は高学年の指導内容の重点化として示されているものの一つである。集団における役割や責任を果たすことは、国家・社会の一員としての自覚を高めることにもつながり、小学校教育の完成期である高学年児童に養うべき道徳性である。児童一人一人に、集団の意義に気付かせ、その中で自分の役割を自覚して責任を果たそうとする態度を養っていく必要がある。
- 本学級の児童は、明るく活発で何に対しても積極的に行動しようとする児童が多い。平成 25 年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童が 98%（全国平均 93.7%）と肯定的評価が高かった。しかし、自分にかかわることに対しては主体的に行動するが、集団全体で活動する際、人任せにしたり、自らやるべき役割を考え自覚して行動したりすることが難しい児童が多い。アンケートでも、集団の中で自らの役割を意識して行動できる児童は 60%と低い状況にあった。このことから、「人の役に立ちたい」という思いはあるが、児童自らの集団の中での役割の自覚が高まっておらず、行動化に至っていないことが明らかになった。
- 本資料は、学習発表会で発表する劇づくりが題材になっており、全ての児童に共通経験があるため、自分とのかかわりを通して考えることができる内容である。本当はやりたかった女王の役になれなかった主人公えり子を主人公として資料は進んでいく。「劇はみんなで作り上げるもの」と分かってはいるものの気分が乗らないえり子だったが、「だれかがやらなきゃ、劇にならない」と言った文男の言葉を聞き、劇に対する気持ちが変化していく。最後に「劇を成功させなくっちゃ。みんなで成功させるのよ!」と感じるえり子の姿から、集団の一員としての自覚をもち、協力してみんなでよいものを作っていく大切さに気付かせることができる資料だと考える。
- 指導に当たっては、主人公えり子の気持ちに寄り添わせながら話し合わせていく。多くの児童はえり子と同じような経験をもっている。そのため展開前段では、まず、えり子のめぐみに対する思いやその行動について考えさせ、分かってはいるものの女王役になれなくて不満を感じているえり子の気持ちに寄り添わせる。そして、「だれかがやらなきゃ劇にならないじゃないか。」と言った文男の言葉をきっかけに、役割の大切や集団全体のために自分の仕事を最後までやらなければならないと気付いたえり子の気持ちの変化を話し合わせる。展開後段は、常時活動で行っている縦割り班掃除の画像を提示し、異学年集団で活動する際の様子や気持ちを出し合わせ、自分の行動を振り返らせる。また、「集団の中での役割の自覚を高める集団かかわりプログラム」の第 5 時として学習するため、集団の一員として、集団全体の向上のために自分が何をすべきか考えさせ、主体的に役割を果たそうとする道徳的態度を養う。

7 学習指導過程

段階	授業展開	主な発問 (○) と中心発問 (◎) 予想される児童の心の動き (・)	留意点 (・) 及び評価 (*)
導入	1 体験活動の様子を振り返る。	○キャンプの出し物を決める時、どうだったか。 ・いろいろ決めて練習もできたよ。 ・話合いがうまくいかなかったよ。 ・みんなが協力したから早く進んだよ。	・心のファイルを見ながら、活動の様子や感想を出しわせる。 ・様々な意見を出させるため、楽しい雰囲気を作る。
展開前段	2 資料を聞いて話し合う。	○絵筆を持つ手に力が入らないえり子は、どんな気持ちなのでしょう。 ・やっぱり女王をやりたかったな。 ・めぐみさんの方が上手いけど、譲らなかったら良かった。 ・面白くないな。適当でいいや。 ○文男の「だれかがやらなきゃ劇にならないじゃないか。」という言葉聞いた時、えり子はどんな気持ちになったでしょう。 ・文男くんはすごいな。自分の仕事をやりきっているな。 ・私は、文男くんのようにがんばっていない。恥ずかしいな。 ・仕事を最後までやりきろうとする姿は素晴らしいな。 ○えり子は何がきっかけでやる気になったのでしょうか。 ・めぐみさんも修くんも一生懸命自分の仕事をやっているから。 ・みんなが目標にむかって力を出し切ろうとしているから。 ・自分だけやる気を出さなかったら申し訳ないから。 ◎えり子はどんな気持ちでポスターカラーを皿の上で溶いているのでしょうか。 ・みんなががんばっているんだから私も最後までやりきるぞ。 ・どの仕事も大切な仕事なんだな。一人でも怠けたら劇が成功しない。 ・絶対にこの劇を成功させないと。	・女王役をやりたい気持ちがあったにもかかわらず、めぐみに役を譲ったえり子の気持ちに寄り添わせるため、場面の状況をわかりやすく伝える。 ・文男の言葉を聞いて「だまっていた」えり子に焦点を当て、なぜ何も言えなかったのか理由を考えさせ、自分の中途半端な態度を振り返っているえり子の気持ちを感じ取らせる。 ・えり子以外の友達の行動やその行動の良さに気付かせる。 ・なぜそれがきっかけになったのか、理由も考えさせる。 ・まずはワークシートに自分の考えや気持ちを書かせ、その後交流させることで、他者の考えにも出あわせる。 ・文男や他の友達の言葉や行動の意味について考えさせ、一人一人が自分の役割を果たすことが集団の成功につながることに共感させる。 * 集団の一員として自分のやるべきことを知り、集団全体のことを考えて行動しようとする意欲を高めることができたか。(ワークシート)

展開後段	3 縦割り班掃除の画像や映像を見て自分たちの行動について振り返る。	○みんながやっている縦割り掃除の様子を見てどう思いましたか。 ・○○君はみんなにしっかり声をかけている。 ・お手本になるように頑張って掃除をしているよ。 ・6年生を助けながら手伝っているね。 ○私たち5年生の役割についてどう思いますか。 ・6年生を助けるため、まわりを見ながら掃除しないといけない。 ・1, 2年生に声をかけたり、手本を見せたりすることが役割だと思う。 ・5年生が役割を果たさなかったら掃除ができないしまとまらない。しっかりやらなきゃいけない。	・自分の生活や行動を振り返らせ、常時活動の様子について話し合わせる。 ・低学年との体験活動や登校班の様子なども想起させることで、自分の役割について考えさせる。
終末	4 これから自分は学校生活の中で、どのように過ごせばよいかを考える。	○よりよい学級、学年、学校にしていくなためにやるべき自分の役割について考えよう。 ・ぼくは5年生として恥ずかしくないようお手本になる姿を見せたい。 ・一つ一つの役割は大切なので、まわりをよく見て、みんなのために進んで行動していきたい。 ・何をすべきか考えて、嫌な仕事や役割もやっていかなければならない。それが高学年だと思う。	・「私たちの道徳」p150「みんなの中で君かがやく」を読み、道徳的価値に向き合う。 ・道徳的実践につながるよう、役割に対する考えや、気持ちの変化したことなどをワークシートに書かせる。これまでできていないことを反省させるのではなく、今後、主体的に役割を果たそうとする意欲につながるようにする。 ・今までの道徳ワークシート等をもとに、自分自身の心と向き合わせ、価値の自覚の高まりを感じさせる。

9 板書計画

